

桑原小だより



No. 14

羽島市立桑原小学校通信

平成27年1月30日(金)

読書のすすめ！

羽島市立桑原小学校長 高橋佐千夫

「しよぎょうむじょう ぜししょうめつぼう しょうめつめつい じゃくめついらく」
確か私が小学校高学年の時に、学校の図書館で何気なく借りた本を開いた時に飛び込んできた文章です。本の題名は「今昔物語」。冒頭の一節は、遙か遠い外国に住んでいたお坊さんが、あるとき近くの川から不思議な声が出てきたのでよく聞いてみると「しよぎょうむじょう・・・」と言う声だったという話です。お坊さんはその声のもとを、たどりにたどってはるばる日本にやってくるのですが、私はその話そのものよりも「しよぎょうむじょう・・・」という言葉が妙に気に入ってしまって何度も声に出し覚えてしまいました。もちろん、意味は全く分かりませんでしたし、調べようともせず、ただ何となく呪文のような感覚で覚えました。「しよぎょうむじょう」が「諸行無常」と一致するのは平家物語を学んだ高校時代です。その時は、新鮮な驚きを感じましたし「古典」というジャンルに興味をもつきっかけともなりました。「月日は百代の過客にして・・・」「ゆく河の流れは絶えずして・・・」「つれづれなるままに日暮らし硯に向かいて・・・」「春はあけぼのやうやう白くなりゆく山際少し明かりて・・・」「今は昔、比延の山にちごありけり。僧たちよいのつれづれに・・・」今でもいくつかの一節を口にすることができます。(でも内容はほとんど覚えていません。ただ、そこだけ言えるだけです。)今から思うと、自分が日本史を学びたいと思うきっかけにもなったような気がします。これは、あくまで私の個人的な経験ではありますが、読書というのは読む楽しさを味わうだけでなく、自分の世界を広げたり、新しい世界とつながったりする楽しさがあると思います。



桑原小では「図書館まつり」が始まりました。図書委員会の子たちは、全校の図書館利用状況を調べ、「学年によって読んだ本の数の差が大きい」「マンガや同じ種類の本を借りる子が多い」という実態をつかみ、「毎日、本を読み、本の楽しさを知って欲しい」という願いをもって「図書館まつり」を行うことにしました。「願いやめあてをもち、その実現のために工夫した取り組みをすること」はとても大切な営みです。授業も含め桑原小学校の全ての活動を通して大切にしたいと考えています。そのためにも、図書委員会の取り組みが成功するよう応援したいと思います。

ご家庭でも親子で読書いかがですか？